



ケアマネジャーの5K問題 現場の危機感を 行政に訴える取り組み、開始!

執筆 ▶ 栗野真造 尼崎市主任介護支援専門員連絡協議会 会長

本誌特集では、生産性向上や業務改善はローカルルールやシステム導入等、個々のケアマネジャーだけでは対策しきれない部分があることをお伝えした。行政と一緒に取り組む必要がある。そこでケアマネジャーの現状を把握し、結果をもとに行政への意見交換、協働による業務改善へと動き始めた尼崎市主任介護支援専門員連絡協議会の取り組みを紹介する。このような動きが全国で起こることで、大きな変革につながるのではないだろうか。

尼崎市の特徴、『尼崎市ケアマネジメント手引書』の発行

尼崎市は、兵庫県の東南部に位置し、大阪市に隣接。人口45万人の中核市である。尼崎市も、急激な高齢化が進んでいる。尼崎市の65歳人口は12万6千人で、高齢化率は27.7%。要介護認定者数は3万人にのぼる（令和5年1月末暫定）。居宅介護支援事業所は192カ所ある（令和6年8月1日現在）。

尼崎市主任介護支援専門員連絡協議会（以下、主任連）は、ケアマネジメントの質の向上と地域福祉の推進を図ることを目的に、平成30年（2018年）3月23日、発足した。ケアマネジャーへの援助、地域づくり、自己の向上のために、主任ケアマネジャーの研修やネット

ワークづくりを続けている。

ケアマネジャー支援の一環で、主任連は、令和5年春、『尼崎市ケアマネジメント手引書』を尼崎市役所と共同編集。市役所から全ての事業所に配布した。尼崎で仕事をする全てのケアマネジャーが、ケアマネジメントの基本を理解し、保険者の尼崎市の介護保険事業計画などをふまえ、「そばにあると、ちょっと便利だね!」と思える情報をまとめた。手引書の説明会とグループワークを開催。居宅の職場ごとで、研修に使われたり、仕事で何か分からないことがある時などに活用されている。

ケアマネジャーの5K

身体介護などをする介護職は、5Kの仕事だといわれてきた。「きつい、きた



ない、きけん、給与がやすい、結婚ができない」。特別養護老人ホームの介護職をしていた25年前、その通りだと思った。汗まみれになる入浴介助、排泄介助、仮眠も取りにくい夜勤。在宅のケアマネジャーになり、15年以上。今は「ケアマネジャーの5K」に悩む。